

2002年5月22日

# 2002年3月期 決算説明会

業績の状況

2003年3月期 経営方針

主要開発品の状況

杏林製薬株式会社

# 2002年3月期 決算概観(連結)

売上面では、新薬上市(キプレス)とガチフロキサシンの輸出増により医療用医薬品が国内・海外ともに堅調で、連結売上高623億円(前年比11.8%増)となり過去最高額を更新しました。利益面では、連結経常利益122億円(過去最高額:前年比24.8%増)、当期純利益41億円(前年比39.5%増)となりました。

単体は、売上高611億円(前年比11.8%増)、経常利益118億円(前年比24.1%増)、当期純利益37億円(前年比35.2%増)となりました。

来期は、薬価改定(8.2%)の影響はあるもののガチフロキサシンの日本国内での上市や昨年発売したキプレスの通年での業績寄与などの要因により、連結売上高763億円(前年比22.3%増)、連結経常利益179億円(前年比46.6%増)、連結当期純利益70億円(前年比70.0%増)を見込んでいます。

	99年3月期	00年3月期	01年3月期	02年3月期	前年比	連単倍率	03年3月期 見込み	前年比
売上高	46,932	52,776	55,832	62,395	11.8%	1.02	76,300	22.3%
営業利益	6,366	8,646	9,049	11,961	32.1%	1.01	17,600	47.2%
経常利益	6,687	8,795	9,786	12,210	24.8%	1.03	17,900	46.6%
当期利益	2,325	4,310	2,951	4,117	39.5%	1.09	7,000	70.0%
EPS	40.41円	74.89円	51.27円	60.55円			81.07円	70.0%
総資産	112,007	117,606	125,476	134,472	7.2%	1.07		
株主資本	92,547	97,868	99,750	102,356	2.6%	1.03		

2001年11月20日付けをもって額面普通株式1株を1.5株に分割

# 2002年3月期 業績の状況(単体)

単位：百万円

	01年3月期 (実績)	02年3月期 (実績)
売上高	54,671	61,131
国内医療用	42,859	45,626
海外医療用	8,646	12,127
その他	3,166	3,378
営業利益	8,980	11,865
経常利益	9,524	11,816
当期利益	2,800	3,785

## <今期のポイント>

■ 売上高 61,131百万円 (+65億円)

<国内医療用> (+28億円)

新薬 ・キプレス 0 31  
 主力製品 ・ムコダイン 161 175  
           ・ケタス 75 75  
           ・ペンタサ 40 45

・契約一時金(ペキロンネイルラッカー・クリーム)により増収

<海外医療用> (+35億円)

・ガチフロキサシンの輸出が堅調 55 98

<その他> (+2億円)

■ 経常利益 11,816百万円 (+23億円)

・経常利益率は19.3%と1.9ポイント上昇

原価率は1.2%低減

・契約一時金収入およびランニングロイヤルティの増加

・ガチフロのコスト低減(購入Vレクなど)

販管費率は売上高の上昇により1.8%低減

\*販管費は下記理由により上昇

・ガチフロ国内プレマーケティング費を計上

・キプレス初期マーケティング費用の発生

・年金運用差損の償却(約3億円)

■ 当期利益 3,785百万円 (+10億円)

・投資有価証券評価損を計上(約5億円)

・退職給付債務の償却(約3.1億円)

■ 配当 15.00円(株式分割前7.50円 分割後5.00円 7.50円)

# 2003年3月期 業績の見込み(単体)

単位：百万円

	02年3月期 (実績)	03年3月期 (見込み)
売上高	61,131	75,000
国内医療用	45,626	60,400
海外医療用	12,127	11,100
その他	3,378	3,500
営業利益	11,865	17,600
経常利益	11,816	17,800
当期利益	3,785	6,900

## < 次期のポイント >

- 売上高 75,000百万円 (+139億円)
- < 国内医療用 > (+148億円)
  - (プラス要因)
  - 新薬
    - ・キプレス 31 75
    - ・ガチフロ 0 100 (杏林売上のみ)
  - \* 契約一時金収入を見込む
  - 主力製品
    - ・ムコダイン 175 177
    - ・ケタス 75 100
    - ・ペンタサ 45 50
  - (マイナス要因)
    - ・薬価改定に伴う仕切価の低下 (薬価改定率8.2%)
- < 海外医療用 > ( 10億円)
  - ・ガチフロキサシンの輸出減 98 80
- < その他 > (+ 1億円)
  - ・ミルトン 29 30
- 経常利益 17,600百万円 (+60億円)
  - ・経常利益率は23.7%と4.4ポイント上昇。
  - 原価率の低下
    - ・原価率の低いガチフロ錠の国内上市
    - ・能代工場の稼働
  - 販管費率の低下
    - ・売上増とその他コストの管理強化により販管費率は低下
    - 販管費の増加要因
      - ・積極的な研究開発投資 (約1.8億円増)
      - ・新薬上市に向けた販売費は増加
- 当期純利益 6,900百万円 (+31億円)
  - ・退職給付債務の償却最終年
- 配当金 15.00円の予定

# 主要開発品 ガチフロキサシン(1) 全体像

地域 (販売企業)	上市予定					提携 その他
	錠剤	注射	小児適応	点眼	点耳	
日本 杏林製薬	承認 2002年上期 上市予定	Ph	上市后 着手予定	千寿製薬 Ph 2002年度 申請予定	準備中	大日本製薬と共同販 売契約締結 2000年12月
米国 BMS社	上市 (1999年12月)	上市	Ph / (現在 Ph )	アラガン社 Ph 2002年 申請予定	導出検討中	シェリング・プラウ社と コ・プロモーション開始 2000年3月
欧州 グリネンタール社	ドイツ承認 (2001年10月)	Ph /				2001年11月上市 (ドイツ チリ)

# 主要製品 ガチフロキサシン(2) 国内の状況

1) 上市時期 6月初旬

2) 売上予想 (初年度及びピーク時)

03年3月期見込み

100億円

\* 杏林製薬のみ売上予想

03年3月期見込み

シェア約10%

ピーク時

シェア20%

\*併売による売上高シェア (成人用経口抗菌剤中)

ピークは、発売後3~4年後

3) マーケティング戦略

主要感染症におけるファースト・チョイス化

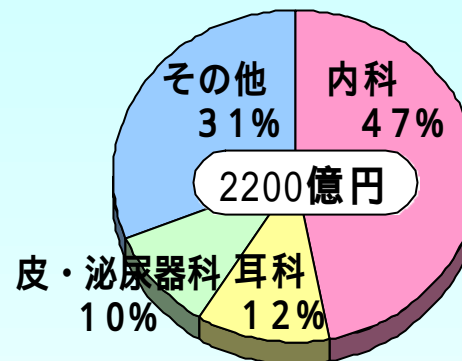
- 呼吸器感染症のempiric therapy (臨床経験と学問的裏付けに基づいた治療) に適した薬剤として慢性呼吸器感染症、下気道感染症への処方拡大を図る

コ・マーケティングによる早期認知度向上

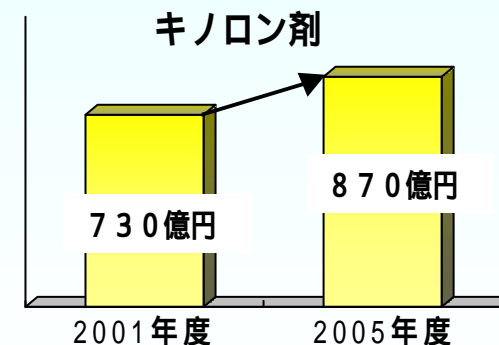
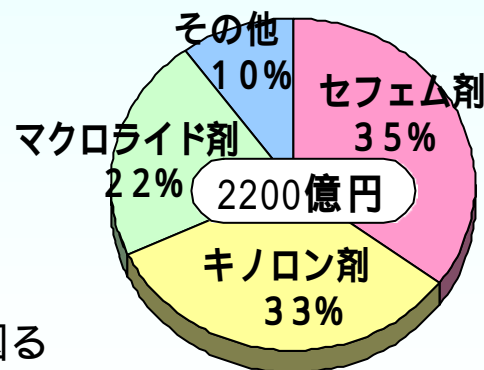
- 学会レベルでの認知推進や専門医の早期認知、早期評価確立を目指す

< 参考資料 >

(1) 成人用経口抗菌剤科別売上高 (2001年度)



(2) 成人用経口抗菌剤系統別売上高 (2001年度)



経口抗菌剤市場は、ここ5年間減少傾向  
キノロン剤市場は、今後15~20%伸長すると予想

# 主要製品 ガチフロキサシン(3) 海外の状況

## 1. 海外発売国

(1) 発売国数 17ヶ国

メキシコ、プエルトリコ、米国、ブラジル、アルゼンチン、タイ、シンガポール、オーストラリア、フィリピン、南アフリカ、カナダ、インドネシア、グアム、チリ、ドイツ、ベトナム、マレーシア

## 2. 海外の状況

### (1) 米国・欧州別売上高の状況

	2000年	2001年	2002年 (見込み)
BMS社売上 (mil\$)	131	320	230 ~ 250
G社 (milユーロ)		2	15

### ガチフロキサシン輸出減の理由 (03年3月期)

過剰流通在庫によるBMS社売上(米国)の減少  
ラベリング変更に伴う処方抑制  
血糖値変化についてWARNINGSに記載

### (2) 欧州の状況 (上市予定国 2002年~2003年)

スイス、オランダ、オーストリア、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、ルクセンブルグ、フィンランド、アイスランド

## 3. 輸出の状況

	99年3月期	00年3月期	01年3月期	02年3月期	03年3月期 (見込み)
ガチフロ	0	27	55	98	80
輸出計	48	69	86	121	111

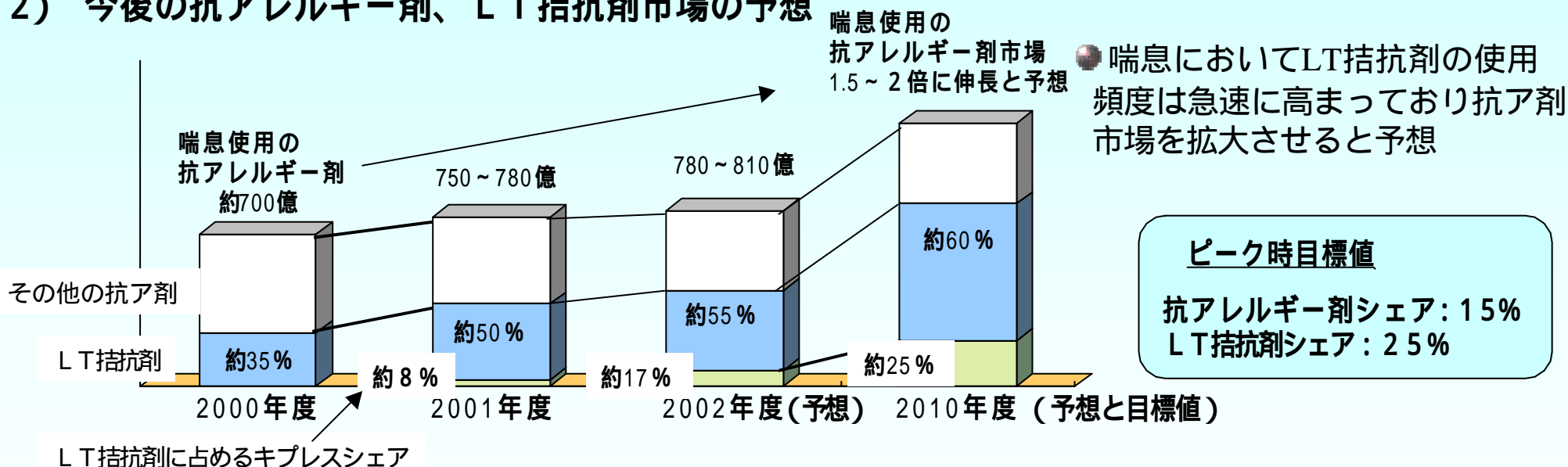
単位: 億円

# 主要製品 キプレスの展開

## 1) 2001年度実績及び見込み

02年度3月期 実績	03年3月期(見込み)
31億円	75億円

## 2) 今後の抗アレルギー剤、LT拮抗剤市場の予想



## 3) 今後のマーケティング戦略

ターゲットマーケティングの推進

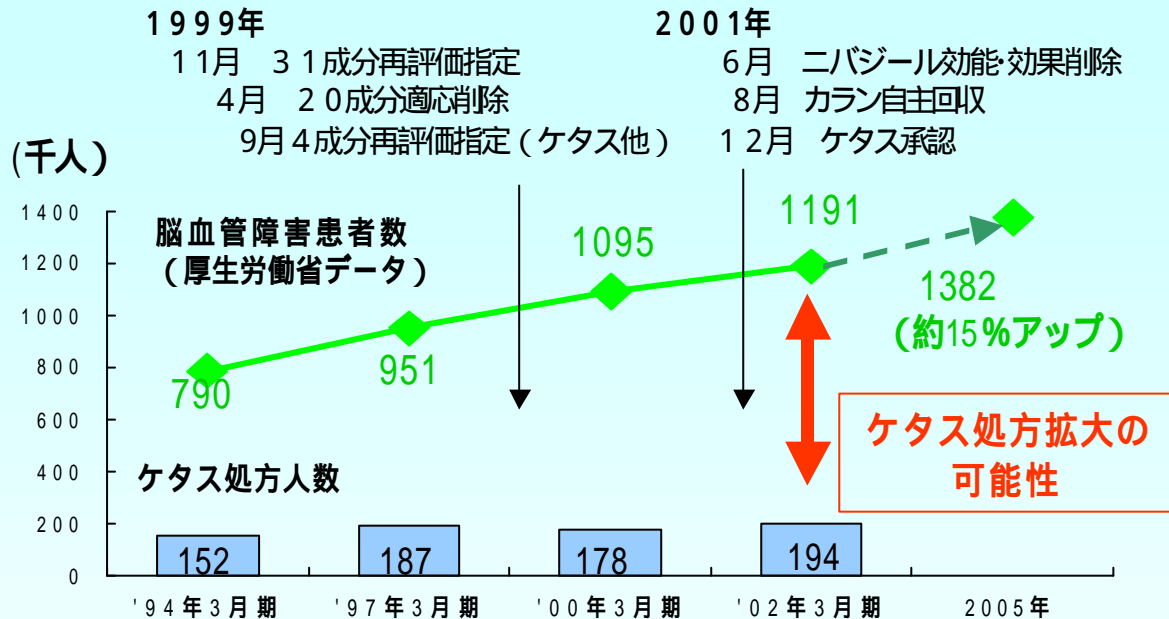
長期処方許可による処方拡大(30日以上投与、2002年9月より可能)

有用性の訴求と差別化(1日1回投与、ステロイド剤との併用効果)

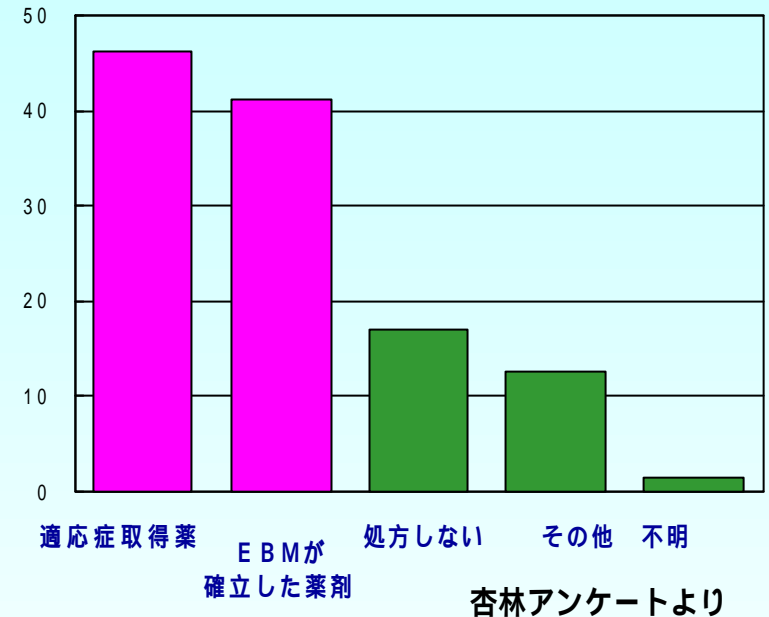


# 主要製品 ケタスカプセル10mgの展開

## 1. ケタス処方患者数及び脳血管障害患者数の推移



## (%) ケタス未処方医師の処方動機



## 2. 競合品 脳循環改善剤として脳梗塞に使用可能な薬剤

- ・ケタス
- ・ サアミオン(田辺)
- ・ セロクラール(アベンティス)

## 3. 目標値 100億円(2003年3月期)

## 4. プロモーション

### 1) 脳血管障害治療剤の市場拡大

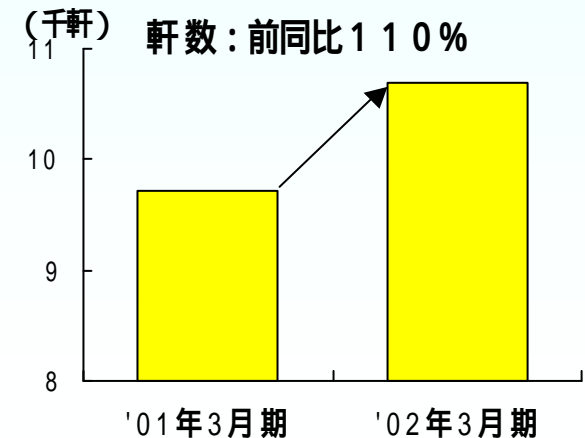
- ・ケタス有用性の訴求(ケタスVSプラセボ=50%:18.7%)
- \* 専門誌への論文投稿など

### 2) 新規納入による採用件数拡大

- ・HP層: 多施設臨床試験の検討
- ・GP層: 卸との協働、レンタルMSの活用

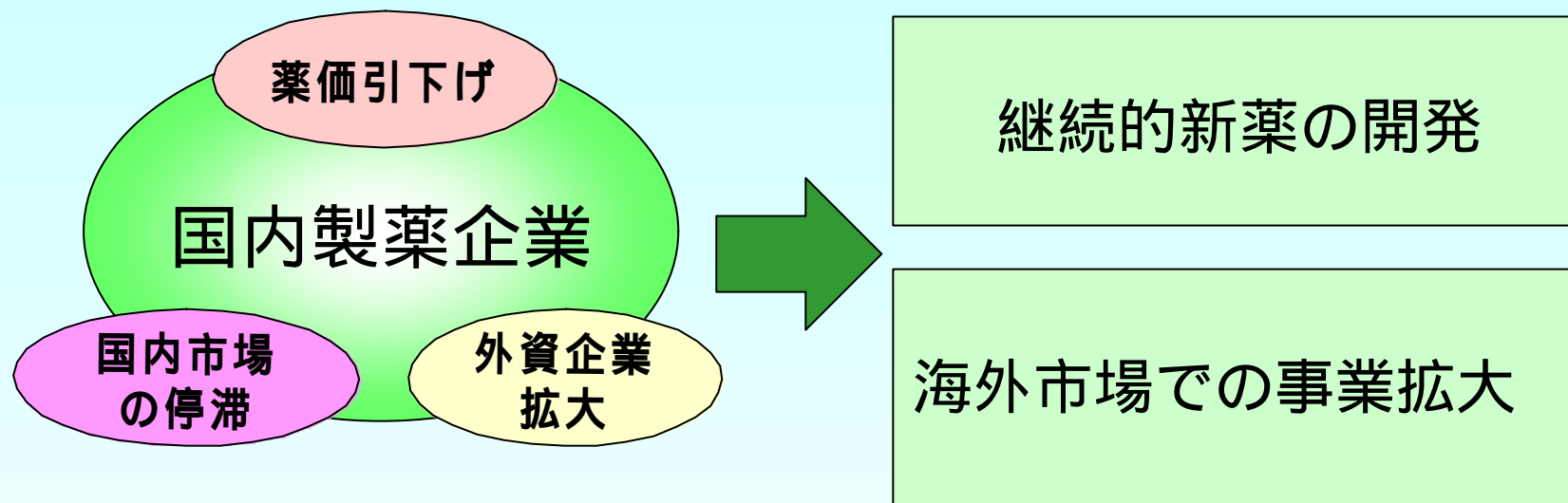
## ケタス納入軒数(GP層)

\*1~3月の比較



# 環境変化への対応:

## 21世紀を代表する産業・企業として成長するためには



- 優勝劣敗の加速化
- 大手製薬企業と中堅・小型企業の収益 2極化
- 製薬業界の再編の可能性

### キョーリン製薬

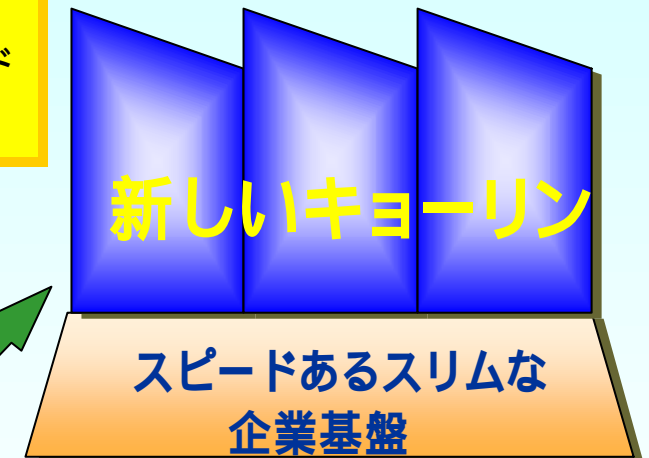
生き残りに向け「M I C - '0 5 計画」による大変革に取り組んでいる

# 中期経営計画：キョーリンMIC計画の進捗度

新しいキョーリン像「FM領域において国際的な創薬力を有する新薬開発型企业」  
 に向けて2001年度(2002年3月期)MIC-'05計画をスタート

## キョーリンMIC計画

マーケティング(Marketing)、革新(Innovation)、挑戦(Challenge)をキーワードとし、将来につながる企業基盤の構築と活力ある企業風土を創造



### MIC-'02計画目標値

売上高	650億円
経常利益率	25%
ROE	7%
販管費比率	46%

MIC-'02

MIC-'05

進化

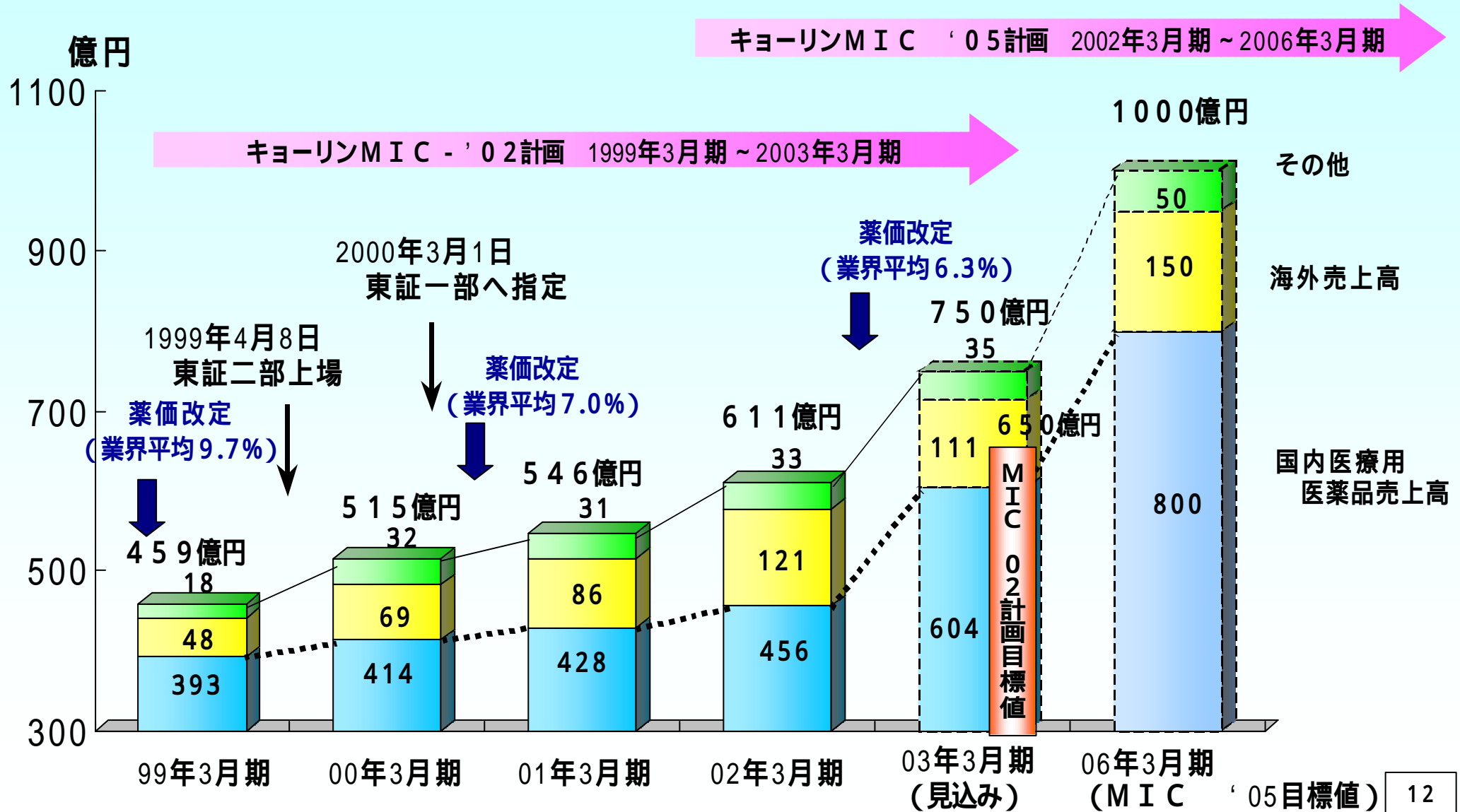
破壊

### MIC-'05計画目標値

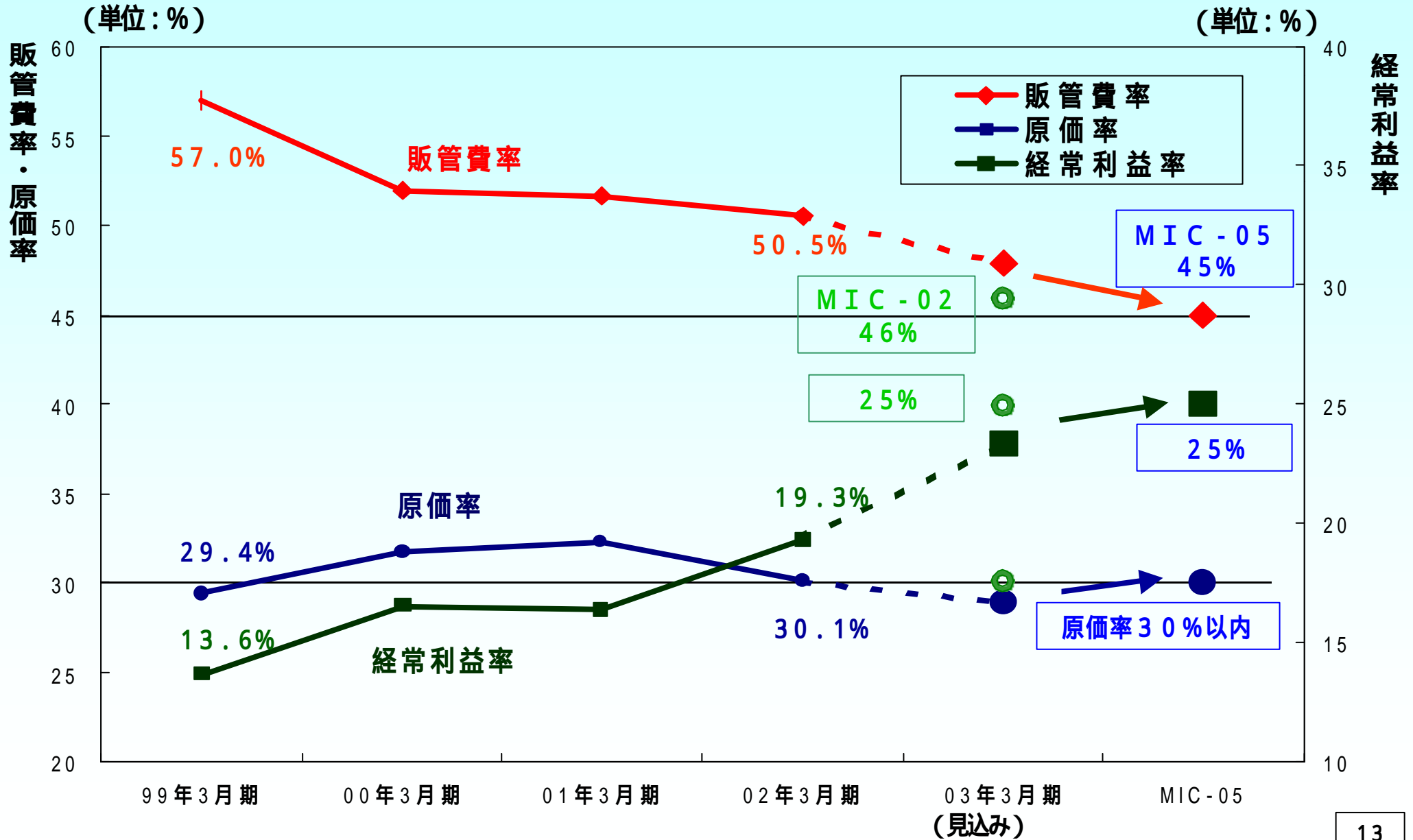
R&D費	150億円
売上高	1000億円
経常利益率	25%
人員	1700名
1人当り生産性	約6000万円/年



# 上場後の業績推移(単体)



# M I C 計画 経営指標の推移(単体)



# 2002年度は当社にとってまさに桶狭間の戦い！

## 桶狭間の戦いより

1560年、織田信長は僅か3000の兵で、今川義元25000の大軍を打ち破り勝利を収め、尾張の一大名から天下人となった。

千載一遇のチャンスをつかみ一層の飛躍を目指す  
そのためには変革に取り組み進化することが必要

新しいキョーリンへの飛躍  
トップクラス/  
21世紀に相応しい企業

**KYORIN**  
500億企業

有望な大型新薬による  
大手企業との戦い

**KYORIN**  
1000億企業

不連続の変化

# 2002年度 経営方針

## < 基本方針 >

「進化と創造：新たな企業価値の創出」

- 勝機をつかもう！ -

## < 基本項目 >

- 1 . 創薬研究基盤の拡充と新薬開発の加速化
- 2 . 薬価ダウンを吸収し、大型新薬による大飛躍を目指すF C戦略の推進
- 3 . パイプラインのさらなる強化と海外基盤の育成
- 4 . 効率経営の徹底

# 基本項目 1

## 1 . 創薬研究基盤の拡充と新薬開発の加速化

### リード探索基盤の強化に向けた創薬研究ネットワークの更なる拡充

- ・ 創薬研究ネットワーク拡充のために積極的投資を行う
- ・ K S R L の拡大 / ベンチャー企業との共同研究を推進する  
今年度は代謝性疾患領域の研究ネットワークを強化

### リード最適化ステージの体制強化とスピードアップ

- ・ 年 2 テーマを P O C にステージアップさせる体制を目指す  
\* P O C : Proof of Concept の略。動物実験において明らかにされた開発コンセプト (有効性・安全性) を P h <sub>1</sub> 、 P h <sub>2</sub> a を通じてヒトで確認・検証すること

### 「創薬から申請まで 1 1 年」への挑戦

- ・ リード最適化が成功したプロジェクトを Proof of concept ( P O C ) のため海外で P h <sub>1</sub> , P h <sub>2</sub> a 試験を先行実施し , P O C 後本格的な国内開発を展開する  
2 品目以上を予定 ( N - 5 9 8 4 , 前臨床品 )
- ・ 医薬品効率化プロジェクト ( P M 制 , 臨床開発のユニット制 , 文書管理システム ) 等の仕組みの定着化により効率的 R & D を推進する



# 基本項目 2

## 2 . 薬価ダウンを吸収し , 大型新薬による大飛躍を目指す F C 戦略の推進

売上拡大に向けた営業体制の強化

ターゲットマーケティングの徹底

F C 3 科への資源の集中とそれをカバーする外部資源の活用強化

- ・卸との連携強化、共同販売メーカーとの協調強化等
- ・ F C 3 科医師への 1 0 0 % 面談を行なう
- ・ F C 3 科売上高 6 0 % を目指す

上市後の E B M , P h b ( 効追 , 剤追 , 新規メカ ) への積極的な取組

# 基本項目 3

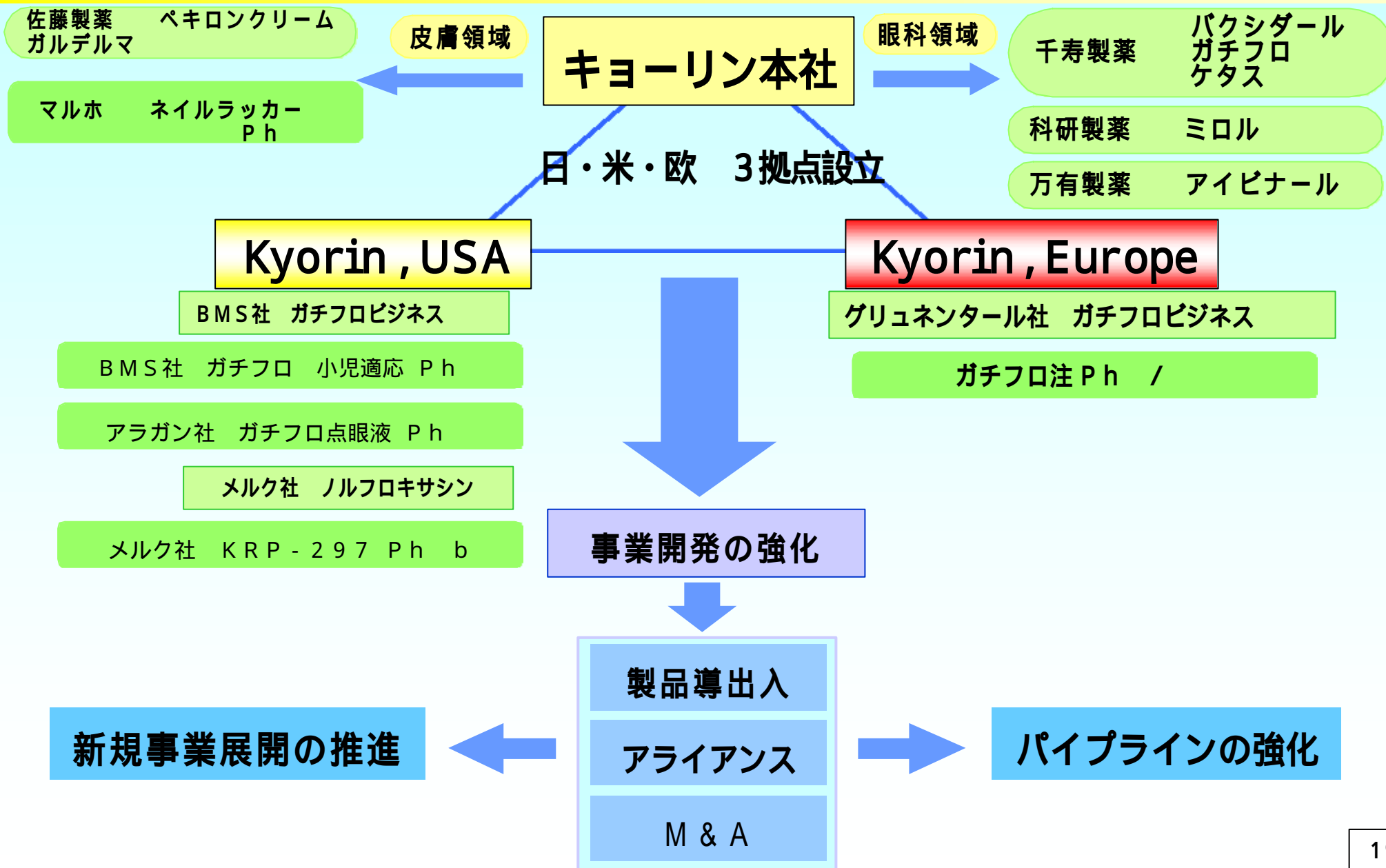
## 3 . パイプラインのさらなる強化と海外基盤の育成

パイプライン補強するための新薬導入とアライアンスの強力な推進

- ・ 臨床開発に早期に組み込める新薬導入の実施 / 検討を行なう

キョーリン Europe の立上げとキョーリン USA の具体的な成果獲得

# パイプラインのさらなる強化と海外基盤の育成



# 基本項目 4

## 4 . 効率経営の徹底

生産将来構想の概要設計化に着手

コストダウンへの取組

一層の間接部門の効率化 , スリム化

# 主要開発品一覧 (2002年3月31日現在)

開発段階	製品名・開発コード	薬効	起源	特徴	備考
承認 (02年4月)	ガチフロ錠	合成抗菌剤	自社	呼吸器感染症、特に肺炎球菌や、PRSPを含む各種薬剤耐性菌にも効果。経口で、注射並みの血中プロファイルを示す。	<海外> 米国：BMS社に導出 欧州：グリュネンタル社に導出 <国内> 大日本製薬と併売契約締結(2000年12月)
申請 (02年2月)	N-3389 (錠)	制吐剤	日清製粉	5-HT <sub>3</sub> と5-HT <sub>4</sub> 拮抗作用を併せ持つ。	日清キョーリン製薬が単独で申請 *日清製粉グループ 日清ファルマと共同開発
申請 (01年11月)	マクサルト錠 マクサルトウエハース錠	片頭痛治療剤	メルク社	強力な5-HT <sub>1B/1D</sub> 作動薬。片頭痛発現後の投与において速やかに効果を発現する。再発例に対しても改善効果を示す	日本国内における開発は万有製薬が実施し、杏林製薬が承認申請 独占的販売権を杏林製薬が取得
Ph	ペキロン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤。	マルホと共同開発(01年11月)
Ph	KRP-197 (錠)	尿失禁治療剤	自社	抗コリン作用が強く、口渇等の副作用軽減が期待される。	<海外> 英国においてPh 終了(CRO活用) <国内> *小野薬品工業と共同開発・販売
Ph	モンテルカスト (キプレス錠4mg)	気管支喘息 治療剤	メルク社	小児(2歳~5歳)用の新規製剤	4mg錠 剤形追加 用法・用量の変更 *万有製薬と共同開発
Ph	KRP-297 (錠)	糖尿病治療剤	自社	インスリン抵抗性改善作用と糖尿病に伴う脂質代謝異常にも効果。	<海外> 米国メルク社に導出(99年9月) <国内> *万有製薬と共同開発
Ph	ガチフロ注	合成抗菌剤	自社		剤形追加
Ph	N-5984 (錠)	糖尿病治療剤 抗肥満剤	日清製粉	選択性の高い 3受容体作動薬。高血糖及び耐糖能、高インスリン血症を改善すると共に血漿中TG、FFAを低下させる。	*日清製粉グループ 日清ファルマと共同開発

# 主要開発品一覧 (2002年3月31日現在)

## その他の開発品 (一部変更承認)

開発段階	製品名・開発コード	薬効	起源	特徴	備考
申請 (01年12月)	ムコダインDS	気道粘液調整 粘膜正常化剤	自社開発	半溶解型製剤で服用しやすく、また小児にも好まれるピーチ味の製剤	処方変更 小児適用 <成人用> *2001年7月6日薬価収載

## 導出品の状況

	製品名・開発コード	導出先	開発段階	薬効	起源	備考
導 出 製 品	ガチフロキサシン 錠剤	グリュネンタール社	ドイツ承認 (2001年10月)	合成抗菌剤	自社	2001年11月上市
	ガチフロキサシン 注射剤	グリュネンタール社	Ph /	合成抗菌剤	自社	
	ガチフロキサシン 点眼液	アラガン社	Ph (米国)	合成抗菌剤	自社	日本、中国、韓国、台湾を除く全世界における 開発、製剤及び販売権を供与
		千寿製薬	Ph (国内)			日本における開発、製剤及び販売権を供与
KRP - 297	メルク社	Ph b (米国)	糖尿病治療剤	自社	日本、中国、韓国、台湾を除く全世界における 研究開発及び販売権を供与	

# 新規事業の拡充 - 新しい事業開発の現状 -

## 1. ビストナー事業ファンドの状況

- ・設立 2000年9月
- ・出資額 50億円(既出資計画 20億円)
- ・対象領域 「医薬品関連」「医療関連」「介護関連」「健康関連」

### 投資案件

領 域
< 医薬品領域 > ゲノム創薬 他
< 医療領域 > 代替医療 再生医療 ITなど
< 介護領域 > 施設経営 在宅介護サービス 関連製品など
< 健康領域 > 食 品 健康食品など



投資件数	投資先の事業内容
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶏肉用殺菌剤</li> <li>・ウイルス性肝炎、関節リウマチ等の治療薬開発</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問歯科診療の管理・運営</li> <li>・C型肝炎の温熱治療装置・治療法の開発</li> <li>・非侵襲的医療機器の開発</li> <li>・レーザーによる近視治療の事業化</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機汚泥処理システム(介護用トイレなど)の事業化</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康食品通信販売</li> <li>・証券会社(中国の漢方、健食等の情報強化)</li> <li>・農業用資材 / 農産物流通事業</li> <li>・食品素材開発</li> <li>・スキンケア用品開発 / 販売</li> <li>・汚水処理用各種担体の事業化</li> </ul>

合計 13 件投資